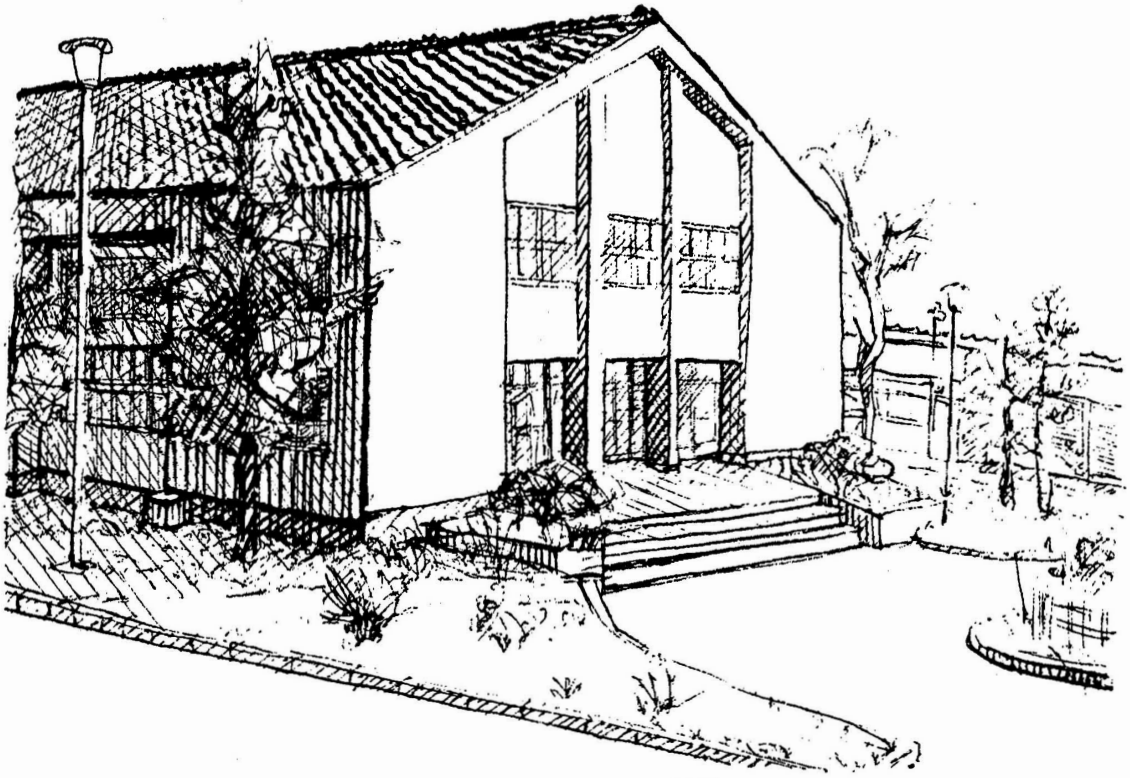
学園ニュース

富山大学

NO.37

編集 学園ニュース編集委員会　発行 富山大学　　昭和56年12月15日



学内風景（その2）黒田講堂まえ　　山河真理子

― 目　　次 ―

保健管理センターに想う……保健管理センター所長　浅井　亨…… 2

新任教官紹介及びあいさつ…… 3

Als Gast hier …… Dr. Gregor Häfliger …… 5

経営短期大学部の推薦入学について …… 経営短期大学部助教授　榊原英夫…… 6

ハルピン船舶工程学院の紹介……国費外国人留学生　華　克強…… 6

西ドイツ・ロイトリンゲン教育大学に留学して……教育学部中学校（音楽）野崎久美子…… 7

昭和56年度教員養成課程合宿研修を終えて …… 8

人文学部だより…… 9

教養部だより…… 10

保健管理センターだより…… 11

学生部だより…… 13

保健管理センターに想う

保健管理センター所長　浅　井　　亨

センター長就任の挨拶を書いて欲しいと言うことなので，この機会を利用して日頃思っていたことの一部を誌して，ご批判を仰ぎ，挨拶とさせていただく。

大学における集団的な保健管理というのは大学の問題であると同時に国家的規模でも論じられる課題であろうから，ここでは主として個人個人の健康面からみた保健管理センターの姿について述べてみたいと思う。

身心の健康を維持し増進させる意味での「保健」というのは本来は個人の問題であって「センター」が管理したり，指導したりする問題ではない。せいぜい「センター」は，健康とは何かについて啓蒙を試みたり，どうすればよいかについて若干のお役に立てる程度かと思う。しかし1960 年代の中頃より文部省の音頭で全国の大学に保健管理センターが設置され始め，今や100近い国立大学で未設置校は15校ほどという盛況である。健康というものは失って初めてその重要性に気付くことが多い状態であるから「転ばぬ先の杖」の役を担うセンターの増設は誠に嘉すべきことであろう。

ところが，ラジオや新聞の「健康相談」が実はほとんど「疾病に関する相談」であるのと同様に，各大学の「保健管理センター」の多くは「簡易診療所」に近い状態であるらしい。学生や教官，職員も「保健センター」とは応急手当をして呉れる所と考えがちであるし，臨床医だった医師はなかなか患者離れができにくい上に昔の保健室，医務室が拡充されたという歴史的事情も加わって，どうしても「診療」がかなりの比重を示めがちなのであろう。また医療僻地とも呼べる環境の場所に設立された大学では医療そのものが重宝がられたであろうし，各地の公立大病院外来の混雑はセンターの手軽さ，気安さに大きな存在価値を与えてきたことも見逃せない。

だが各都市で医療体制がかなり整備されてきた今日では，安易に「カゼ薬」を出し，気軽に注射をする「センター」は存在理由を失ないかけている，というより害の方が大きいのではないかとさえ恐れる。ただし本学の保健管理センター，およびそれと半ば一体となっている共済組合診療所が有害だと言うのではない。この点は誤解なさらないようにしていただきたい。

そこで各大学のセンターで，パンフレットの作成と配布，講演会や公開講座の開設，健康促進室の新設などいろいろなＰＲが行なわれるようになってきた。しかしまだ「学生や教職員の中にはセンターに対して診療行為を期待している声が相当あるのだから，これに応えるべきだ」という意見も根強い。しかし，センター自身が「健康」に関して警鐘も鳴らさず，啓蒙もしないでおいて「診療」が一般的要求としてあると主張するのは筋違いの論であろうかと思う。

最近になって，ようやく一部の大学で保健管理センターが人員も機構も大型化してきたと同時に「診療」を一切，中止して本来の保健業務に専念するようになった。そして劣悪な設備での身の毛のよだつような診療から解放された代りに，センターが図書館と同程度に大学にとって必要不可欠かどうか，センターは何をなすべきか，という課題の解決が現在模索されている。

センターがサービス機関なのか。教育研究機関なのかは別として，少くとも大型，中型のセンターが特定の１大学に属さない形で，例えばブロック単位で統合設置された方が或はより効果的で能率も良いかと思うが実現には難問が山ほどあることであろう。ともかくも予防医学が治療医学より重視されるに至っていない現状では，公衆衛生学，衛生学さらに保健学の専門家たちが主体となってセンターが構成されるようになるまではまだまだ年月がかかるであろう。

本学の保健管理センターとしては，設置されている限りは各種の疾病相談や診療，さらに人生相談も含めて必要な時に必要な人が気軽に利用できる本当に役に立つものでありたいと願っている。ただし，簡単に睡眠薬をもらったり，マラソンをやっても大丈夫と命を保証してくれたりする所ではないことをお忘れにならないよう，お願いしておく。

以上，雑感で新任の挨拶に代えさせていただきます。

新　任　教　官

○村井　文夫　助　手（人文学部）　56. 6. 16
昭54. 3　東京大学大学院人文科学研究科比較文学比較文化専門課程修士課程修了
担当：アメリカ文学

○ホフマン，トマス・ロナルド
外国人教師（人文学部 教育学部）　56. 10. 1
1962. 6　イリノイ大学大学院修士課程修了
担当：英語学・英米文学
（第3期博士号（言語学）1978年5月 パリ第4大学（ソルボンヌ大学））

○深井　甚三　講　師（教育学部）　56. 6. 1
昭53. 3　東北大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学
担当：日本史（近世）

○高瀬　均　助　手（工学部）　56. 7. 1
昭56. 6　東京工業大学大学院総合理工学研究科博士課程修了
担当：機械的単位操作

○海老原直邦　助教授（教養部）　56. 10. 16
昭48. 3　広島大学大学院教育学研究科修士課程修了
担当：心理学

所　感

人文学部助手　村　井　文　夫

学生時代，学生が集まって読書会をやり，一年半ほど易をもとにした中国の錬金術，錬丹術（不老不死の仙薬を作る術）の本を読んだことがある。もとより中国語の素養のないものが寄ってたかって諸橋大漢和に首っ引きのたどたどしさであるから，三人寄って文珠も浮かばれぬていたらくではあったが，易の爻，月の満ち欠け，四季の変化，十二支など「気をめぐらす」といってはぐるぐると円が描かれているのが面白かった。天・地・人という三者もぐるぐる滞りなくめぐりめぐる(commerce)のがよいようだ。

ところで富山へやって来て一番感じたのは，一日の温度差が大きいということである。日中暑くてたまらぬ夏の日も朝方は毛布を被らないと寒くてねむれない。つまり気温が高いところから低いところへ，またその逆へと激しくめぐりめぐっているのである。

かくして富山に薬売りが盛んになった理由に合点がいったのであった。

自己紹介をかねて

教育学部講師　深　井　甚　三

わたくしは六月一日に東北大学文学部よりこちらの教育学部へ転任してまいりました。頂度その頃は冬型の気候となる日もたまたまあり，雷が鳴るかと思うと目まぐるしく天気は変るという天候で，これでベタ雪を降らせれば話に聞く冬の天気で，若干時期はずれの転任のわたしに，予め富山らしさを経験させてくれたものと思った次第です。

最近，日本海文化・日本海地域という言葉をよく目にします。経済学部にも日本海域研究所があるそうですし，隣の金沢大学には日本海文化研究室なるものがあったかと思います。また，富山市が日本海文化のシンポジウムまで開くほどです。裏日本という呼び方を否定するのは，その語がもつ差別性からいって当然ですが，北陸地域という呼称もあまり使われずに，その場合にも日本海地域という呼び方で代えることも多いようです。やはり北陸の話からは雪害に苦しむ，住民

生活に必ずしも快適でない地域というイメージがあるからでしょうか。地域概念をあいまいにすれば事態の本質はつかみにくくなるのが普通ではないかと思いますが。

さて，わたくしは日本近世史，いわゆる江戸時代史を専攻しております。主に都市と交通の問題を研究してまいりました。この江戸時代では東日本に限れば，日本海側地域がいわゆる表日本の呼称にふさわしく，北陸地域では特に都市の展開も密で，また蝦夷や大阪とこの地域を結ぶ北前船が活発に活動しておりました。このため旧加賀藩領域の都市・交通に関しての研究は，他地域に較べ豊かな蓄積をもっております。わたくしも，問題の一般化のための前提作業ということと共に地域史研究の重要性という点からも，この北陸をフィールドとして従来からの研究を続けていきたいと思っております。

自然科学系の学問の多くが共同研究の体制をとっておりますが，最近の日本近世史の研究もまた共同研究を組まねばとても進歩しない状況となっております。また，近世史研究に欠かせぬ史料調査には多人数の手を必要とします。こうした調査や研究を，自分が指導した学生諸君とともに行うのが，近世史研究を行う大学教官の喜びの一つであるわけですが，私の演習をとる学生諸君がどれだけ活躍してくれるものか，楽しみにしているところです。

あいさつ

工学部助手　高　瀬　　均

11月に入って雨降りと曇天が続く毎日に，自分が今富山にいることを実感させられるこの頃です。故郷であり，かって富山大学に学んだ私にとってはこの天候はあたりまえのはずですが，今年は妙に新鮮さを感じます。

私は富山大学で化学工学を学び，その後，東京工業大学で化学環境工学を専攻しました。この分野はいわゆる学際的な研究分野で，専攻の学生には応用化学，地球化学，化学工学などの化学系から，環境工学，農学部出身のものまでおり，これらが一堂に会して議論すると，一つの問題についても着眼点がそれぞれ異なり，その意見たるや千差万別となります。彼等の中で過した数年間は，私の狭い知識を少しは広げ物事を多面的に見ることと，自分の研究の立場を明確に自覚する上で貴重な時間であったと考えています。何かの本に，研究の進め方として「一点集中主義もよいが広く耕して所々に深く杭を打ち込む方がバランスがとれている」というのを読んだことがありますが，現在，粉粒体に関したことを研究テーマとしている私にとっても，より広く耕して，より深く打ち込める杭を作ることが課題であると考えています。

ようやく学生気分の抜けた私ですが，先生方，学生諸君からの厳しい御教示をお願い致します。

Als Gast hier

Dr. Gregor Häfliger

Ich unterrichte jetzt im vierten Halbjahr an der hiesigen Universität, bin Gast hier, der die Chance erhalten hat, sich in diesem Land frei bewegen zu lernen, und den die Frage begleitet: Was zog mich an, was hält mich in Japan.

Einzelnes ist es nicht, sicher nicht eine Summe von Einzelnem, ein bestimmter Stil eher, der im Chaos von Äußerungen allmählich hervortritt. Wo aber das Allgemeine Stil ist, ist es nur als besonderer Fall. So will ich's mit einem Beispiel versuchen: einem Jazzkonzert in Toyama. Das Publikum (zum Großteil zwischen 18 und 25 Jahren) saß in sich gekehrt, bis zur Schlußvorführung. Nachdem diese angekündigt worden war und eingesetzt hatte, erhoben sich Einzelne in Bühnennähe und mit ihnen fast ausnahmslos die gesamte Zuhörerschaft und tanzten. Freude, die vorher schon erkennbar gewesen sein mochte, fand in einem plötzlichen Wechsel die Form, in der sie für mich manifest wurde. (Zum Ausmaß der Freude: "Wie die Menschen hier sich freuen können", sagte ein Besucher aus der Schweiz fast erschrocken, als er in Uozu dem Tatemon-Matsuri beiwohnte.) Der raschen Übertragbarkeit des Vorbilds auf alle entsprach die Organisationsform. Tendenzen, den Tanz in Verbindung mit den Nachbarn oder gar einem einzelnen Partner zu entfalten, sah ich keine. Die Beziehung zum andern wurde verschwiegen, vielleicht auch da und dort tabuisiert. Man tanzte mit Ausrichtung zur Bühne, als gäbs nur die Beziehung des Einzelnen zu dem, woran alle teilnehmen, auszubilden, nachdem die Beziehung einmal in eine vervielfältigbare Form umgeschlagen war.

Die Unbefangenheit, mit der man Muster reproduziert, irritiert mich. Ich wuchs in einem Milieu heran, wo dies als Inbegriff von Unselbständigkeit gilt. Form hat dort Ausdruck spontaner und individueller Regungen zu sein. Der Idealfall wäre also die nicht wiederholbare Form. Eine Folge: man steht im Spannungsfeld zwischen individualistischer Exaltation und der Forderung (etwa im deutschen Polit-Rock der Siebzigerjahre), die Spontaneität zu kollektiven Gesten anregen zu lassen. Von einer solchen Spannung war in jenem Konzert nichts zu spüren. Es schien, als fühlte sich jeder an demselben beteiligt und zugleich autark. Das Muster, nach dem man verfuhr, konnte bei jedem und nirgendwo seinen Ursprung haben.

Dagegen schien mir stark ausgebildet: das Gefälle zwischen dem rasch sich einstellenden Effekt, daß man Gemeinschaft erfährt und individuell befriedigt wird, und dem revoltären Verlangen, die Form zu qualifizieren. Das Realisieren von Formen gilt wenig, wenn es nicht zur Meditation des Schrecklichen führt. An den Maßstäben, nach denen sich jenes Gefälle jeweils beurteilen läßt, wird man als Gast hier arbeiten müssen.

Dr Gregor Häfliger

紹介：グレゴール・ヘーフリガー氏

西ドイツ・テュービンゲン大学卒。哲学博士。スイス・チューリッヒ南方のルツェルン出身。
昭和55年4月以降，人文学部・教養部ドイツ語・ドイツ文学担当外国人教師。

経営短期大学部の推薦入学について

経営短期大学部助教授　榊　原　英　夫

経営短期大学部では，10年ほど前から推薦入学制度を実施してきていますが，昭和57年度よりこの制度をさらに拡充することにしました。そこで，この機会にこの制度の概要とその主旨を紹介したいと思います。

昭和57年度から実施します推薦入学制度におきましては，次のいずれかに該当する人達を推薦入学の対象者としています。

(1) 高等学校卒業後の勤続年数が1年以上で上司の推薦のある人（昭和57年3月末日で勤続年数が1年となる人を含みます。）

(2) 高等学校を卒業した人（昭和57年3月卒業見込者を含みます。）で，学校長の推薦のある人

(3) 大学入学資格検定に合格した人

推薦入学者の募集定員は，定員（１００名）の3～4割程度としています。

この推薦入学制度は，いくつかの国公私立大学の昼間学部で実施されています。いわゆる，マル優推薦制度と異なりまして，高等学校における学業成績が特に優秀な人達を確保することを目的とはしていません。したがいまして，推薦の対象者(2)の「学校長の推薦」の要件には，学業成績につきましていかなる条件も付けていません。

この推薦入学制度の主たる狙いは，昼間（通常，9～17時）に“働き”，さらに夜間（18～21時）に“学ぶ”ことに十分耐えうる資質をもった人達を確保することにあります。こういった資質を判断するために，面接調査書（“進学の動機”“短大で学びたいこと”などを記載内容とする調査書）を分析したり，それに基づく面接を行なったりします。また，学力につきましては，出身学校長作成の調査書を参考にして判断しています。

働きながら学ぶことの難かしさを考えますと，学力試験による選抜方法よりも，こういった推薦入学制度における選抜方法の方が，勤労者教育の場にふさわしい学生を選ぶことができると考えています。また，推薦入学によって入学した学生には，“学ぶ”姿勢に真剣さを感じさせる人が多いことも事実です。

この推薦入学制度をできる限り多くの人達に知って頂き，この制度が実りあるものとなりますよう，皆様方の御協力をお願い申し上げます。なお，詳細につきましては，短大事務室学務係［TEL（41）1281内線643］にお問合せ下さい。

ハルピン船舶工程学院の紹介

国費外国人留学生（工学部電気工学科制御工学講座）　華　克　強
（ハルピン大学講師）

ハルピン船舶工程学院は1953年に発足して，28年を経て，現在は綜合的な工科大学になっています。主に船舶製造，船舶動力などの船舶関係の科学及び工程の研究設計方面の教学を行なっています。学院は基礎学科系と六つの工程系があります。基礎学科系は数学，物理，化学，外国語などから構成されています。工程系は船舶製造系，船舶動力系，自動制御系，水声工程系，計算機システム及び機械系です。文化大革命で，一部の教師は学院から各地へと去って行きました。しかし，革命後多くの若い教師が学院に入ってきました。今ハルピン船舶工程学院は中国の重点校になっています。教師陣が若いということが他の重点校にない特徴です。現在，本学修業年限は四年です。大学院生は三年です。学院の教師は８００人です。その中に教授，助教授及び講師は300人位です。学生は2500人位です。学院の実験室は34あります。その外，実習工場が一つあります。図書館には大量な図書，雑誌，資料があります。学院の体育館は中国で一番いい体育館です。一階には温水プール，バレーボール練習コート，試合コート，重量上げ練習室，冷水浴室があり，二階は体操場，機械室，三階は卓球練習場になっています。冬は，室外の温度は氷点下30℃にも達します。しかし学生と教師の体育活動は室内で進められます。いろいろなチームは毎週，指定の時間に練習します。学生はまず必修課程を勉強しなければなりません。それから専門課目を勉強します。最後の一年で必ず一つの卒業研究を完成しなければなりません。卒業してから船舶コースの需要によって，科学研究部門か工場に配属されます。90パーセントの教師は学院の宿舎に住んでいます。宿舎から研究室までは歩いて10分かかりません。毎日大抵自

転車で出勤します。教師の出勤制度は日本の制度と違います。教師は授業，実験及び用事があるとき学院へいきます。ほかの時間は自分の家にいても研究室にいても，どちらでもかまいません。しかし毎年，教師は必ず1200 時間の教学か研究の仕事を完成しなければなりません。規定の仕事を完成してから，普通新しい学問を勉強したり自分の好きな研究をしたりします。学院には幼稚園も託児所もあります。子供は朝8時から午後6時まで集団の生活を過ごします。夏休みと冬休みの期間は教師も休みます。そのとき教師の何割かが療養地へいってのんびりと楽しい時間を過ごします。費用は全部学院が負担してくれます。

学生は全部学院の寮に住んでいます。毎日朝6時半に起きてから一緒に外でラジオ体操をしたり，ジョギングをしたりします。7時20分に食堂で朝食を取り，8時から授業が始まります。学院の教学秩序は文化大革命後よくなりました。学生は必ず授業の前に講堂に着いていなければなりません。もし宿題や実験などを怠っていたら，試験を受けることができません。学生の部屋代 医療費，授業料は全部国から負担され，その外毎月学院から補助金が学生に与えられています。

学院からは今まで9人の教師が日本へ留学してきました。また2人の漢語教師が現在長崎に中国語の授業を担当しに来ています。学院は長崎綜合科学技術大学と姉妹関係にあります。毎年，夏休に長崎綜合科学技術大学の教師と学生が研修団を組んでハルピンへ来て，学院の教師及び学生と一緒に夏休みを過ごします。それから北京，上海などへ観光旅行に出かけます。又毎年何人かの日本人教師が学院へ来て，専門の授業と共同研究を行なっています。

西ドイツ・ロイトリンゲン教育大学に留学して

－私が会ったドイツの学生たち－

教育学部中学校教員養成課程（音楽） 野 崎 久美子

私は，昨年十月から今年の七月までの間ドイツへ留学する機会を得た。留学先は，南西ドイツにあるロイトリンゲンという町であった。人口七万。古い姿をよく残すお隣りの大学町テュービンゲンとは違って，近代化の進む工業の町である。ギリシアやトルコなどからの外国人労働者の姿が目立っていた。この町で言葉もわからないまま生活を始めたのだが，それでも春にもなるとようやく言葉にも生活にも慣れてきた。しかし，そう思えるようになった時には留学期間の十ヶ月も残りわずかになっていたというぐあいで，帰国するときはまさしく後ろ髪を引かれる思いだった。

私が通っていたのはロイトリングン教育大学で，その音楽科で二学期間勉強することができた。大学では主に音楽の授業だけを受けた。普通の学生は二科目専攻しなければならないのだが，言葉もわからない私には一科目で十分すぎるくらいだった。また，音楽は言葉を乗り越えて相手に伝わるので救われる思いもしていた。

他にはドイツ語の話し方の個人授業を受けることができた。「話術法」は全ての学生に義務づけられており，発声のし方，南西ドイツの強い方言の矯正から，いかにしてうまく話すかということまで広範囲にわたるものである。日本では見られないものだけに興味深かった。

大学での授業の他に私は音楽を通していろいろな活動の場を持つことができ，そして，それを通して多くの人々と触れ合うことができた。その中でも，私のドイツでの生活の中心的な位置を占めていたのが町の合唱団での活動であった。それは教会に所属する合唱団で，若い人たちばかりでつくられていた。金曜の夜に練習が行なわれ，歌うのは教会音楽ばかりである。それまでは教会音楽はあまり聴いたこともなかったが，その合唱団で一緒に歌うことを通してその美しさを心ゆくまで味わうことができた。石造りの教会に鳴り渡った「ヨハネ受難曲」の響きは，今も耳に残っている。

またこの集りですばらしい友人を得ることができた。彼らは，言葉のわからない私に心から親切にしてくれた。彼らと行動を共にし，そこで交わされる会話の端々から彼らの考え方を嗅ぎ取っていきながら，大切なことを学ばせてもらったと思っている。

彼らは（ドイツの学生の多くにも共通することだが）自分のやりたいこと，やるべきことを考えながら，前向きの姿勢で生きているという印象を強く受けた。良い意味の個人主義が健在しているのだろう。彼らは「みんながこうだから自分も」とは考えない。「自分は自分」であり，そうあるための自己主張を持っている。大学へも，行きたい人が行きたい時に行く。ドイツには高校卒業試験（アビトゥーア）があり，それにパ

スすれば大学入学の資格が得られる。それで，高校卒業後しばらく世の中を見て，自分の歩む道を見定めてから大学へ来る人も多い。しかし卒業するのは非常に難しく，教員になるにしても大学を出たらすぐになれるというものではなく，長い行程を踏まねばならない。だが自分で決めた道であるから皆真剣である。私は，いつも友人たちの行動力のすばらしさに目を見張っていた。

そして今，私は，受け身的な生き方を改め自分で歩み始めなければならないという思いで一杯である。十ヶ月という短い期間では形に残る成果をあげることはできなかったが，それはこれから私が生きていくうえで問われることであると思う。私にとって，ドイツ留学は終わってはいないのである。

ドイツの友人たちからの手紙を読んではドイツへ思いをはせている。いつか彼らと再会し，今度こそ思う存分話し合えることを夢見ている。

「昭和５６年度教員養成課程合宿研修を終えて」

Ⅰ　能登国立青年の家

実行委員長　吉　井　隆　浩

能登では『豊かな人間性の形成に寄与し，資質のすぐれた人間形成及び教員の養成』が目的でした。ここの参加人数は教職員９人，学生64人で，幸い３日間とも晴天に恵まれ内容の濃い有意義な研修であったと思います。

遅刻者があって出発が遅れ，前途多難と思われたが，時間的に余裕を持っていたのでその後のスケジュールに影響なく，午後にカッター，アーチェリー，サイクリングでヘトヘトになるまで活動し，しかも，夜の講演会では講演者の迫田哲郎所長が驚かれるほどに熱心に聞きました。二日目の午前はオリエンテーリング。道に迷うことなく全員帰還し，次は野外炊飯。煙りに悩ませられながらも何とか食べられるものを作りました。応急処置法は時間のつごうでできなかったが，テント設営，結索法を行い，午後の部を終了しました。夜のキャンドルサービスでは各生活班の趣向を凝らした出し物でたいへん盛り上がりました。最終日は討論会。教育実習の体験を生かした教育についてのさまざまな意見が出て，それぞれに考えを深めたことと思います。そして，最後が厳門でのバス研修。研修とは言うものの休憩を兼ねた楽しいプログラムであり，みんな記念撮影をしたりしてこの研修の名残を惜しんでいました。教育実習直後であり，２泊３日の中にかなり過密なスケジュールを組み込んだため，かなり慌しく，肉体的にきつかったのではないかと思われましたが，今まで交流の少なかった仲間たちや先生方と会話や活動を共にできたことは，いろんな面で有意義だったと思います。

Ⅱ　合宿研修　ー　利賀村

実行委員長　渡　部　隆　志

我々７５名（教官１０名）は富山県利賀村少年自然の家に於いて２泊３日の合宿を行いました。当自然の家は他のところに比べて設備という点では劣っていましたが，逆にいえば自然に打ち克つ強い精神力を育てるには絶好の場所であったといえます。また「全員のリーダー意識の高揚」という意義に従い，だれかひとりに仕事・責任を偏らせることなく，全員が等しく責任・仕事を分かちあえるようにひとりひとりが講師・司会・進行係といったリーダーとなり，学生同士が指導しあうという形で当合宿はすすめられました。

初日のオリエンテーリングでは靴を泥だらけにしてゴールをめざし，講演会（講師は橋良先生）では自然の厳しさの中でたくましく子供を育てていく大切さを知りました。二日目は快晴のもと，女子学生も一所懸命にテントを張り，午後からは６班に分かれて歌に，自然観察に，流木材工に，ゲームに，わら細工にと楽しい時を過ごしました。野外炊飯をやったあと一同待望したキャンプファイヤーでは，ゲームあり歌ありで先生方も大張り切りでした。夜は寒さに震えながらも毛布を体に巻きつけてシュラフにもぐり込んで疲れも

手伝いさっそくにぐっすりと寝入りました。然し寒かった！　三日目には「教科で子供を育てるとは」というテーマにつき各班に分かれて論点をきめて討論しました。さすが実習直後とあって各先生をうならせるような意見が続出し予想以上の盛り上がりをみせていました。こうして三日間を過ごし，各自それぞれの想いを胸に合宿を終えました。

「野外活動」と「ゆとりと充実」の学習についての研修目的は一応達することができ，皆にとっては，立案・企画・準備などの面でも新しい体験であったと思います。教員志望の我々には今後に役立つものと思います。

Ⅲ　飛　驒　流　葉

実行委員長　畝　美樹雄

飛驒流葉の合宿研修は，国民宿舎「霜出荘」を宿に，学生７３人（教職員１０人）で行われました。前年までの教育実習反省会という色彩を，本年は，「野外活動の実践」を中心にしよう，という考えで，学生自身の手で計画立案，実行されました。

第一日目は，高山市内巡検で始まりました。班ごとに思い思いの場所をそれぞれの目的をもって見学するのがこの趣旨でしたが，中には，研修よりも観光的になった班もあったようです。夕食後の講演会は，教育実習を終えたばかりでもあり，今一歩盛りあがりに欠けたようでした。

第二日目は，流葉スキー場を中心に行われました。我々の企画によるオリエンテーリングが，昼食をはさんで５時間にわたって雲ひとつない秋空の下で行われました。他の２箇所と異なり，常設コースがないので，委員で新たにコースの設定をして実施したのですが，全員無事にゴールすることができ大いに安心しました。夕食は，野外炊飯で各班趣向を凝らした献立（カレーが多かったが）で，空腹も手伝い一同満足気でした。夕食後のキャンプファイヤーでは，教官も学生も普段見せない素顔を現わして，たいへん盛り上がりました。

第三日目は，「今日の学校」について討論をすることになっていたのでしたが，教育実習の思い出を話し合うということに終ってしまいました。今回の野外活動についての企画立案そして実行の各段階での貴重な体験を今後の勉学と教師生活に生かしたいと思っています。

◇人文学部だより

○藤井一行教授『反逆と真実の魂』を刊行される

副題に「ベリンスキイの生涯と思想」とあるように，ロシアの社会主義の思想と運動の源流的存在であり，文学批評家でもあるベリンスキイについての評伝。日本におけるベリンスキイの研究書としては本書が初であろう。第１部は彼の生涯，第２部は思想を論する。青木書店刊。１６００円。　藤井教授には『社会主義と自由』『スターリン問題研究序説』その他の著書・訳書がある。

○木下良教授『雪の国北陸 日本の街道　３』を編集執筆される

北陸の北国路・越後路・能登路・三国街道・千国街道など諸街道を採り上げ，街道沿いの風土・歴史・民俗・生活を写真と文章で紹介する。木下教授は編集と「水運と結ぶ深雪北陸道」「五箇山へ向かう加賀藩の陰道」を執筆。楠瀬勝教授は「東国へ京へ・戦乱の峠道」を執筆される。集英社刊。１８００円

○昭和５６年度公開講座行われる

昨年度にひき続き，本年も９月２１日から１０月３日まで，下記の課題・講師で開講された。メインテーマは「世界・文化と人間」。受講生は５６名，全講義修了者は３０名。

月　日	曜	課　　題	専　攻	講　師
９月２１日	月	ギリシア　情詩の世界	哲　学　史	山　村　　敬
９月２２日	火	現代における人間の問題	〃	木　下　　喬
９月２４日	木	テンボ族の村落生活 ーアフリカ学術調査からー	文化人類学	赤　阪　　賢
９月２５日	金	サバンナースワヒリの世界ー	〃	和　崎　洋　一
９月２８日	月	イギリス社会の中の文化の役割 ー特に文学からの観点ー	英　文　学	草　薙　太　郎
９月２９日	火	日本文学の青，ドイツ文学の青	独　文　学	吉　田　　清
９月３０日	水	近現代史上のフランスと日本	西　洋　史	岡　本　　明
１０月　１日	木	ひとことば	言　語　学	浅　井　　亨
１０月　２日	金	ヨーロッパおよびアフリカの民族と言語	国　文　学	都　竹　通　年　雄
１０月　３日	土	東西思想の特質について	哲　　学	中　本　昌　年

◇　教養部だより

○北信越４大学教養部間相互交流合宿セミナー

例年開催されている北信越４大学（福井・金沢・富山・信州）の教養部生を対象にした合宿セミナーが，今年も１０月６日（火）〜９日（土）にかけ，３泊４日の日程で実施されました。今年は鯖江市の鯖江青年の家で行なわれ，４大学の学生４４名参加のもと「越前を中心とした福井県の自然と文化」というテーマで，講義及び見学が行なわれました。本学からは１０名の学生が参加しました。

昭和５６年度の教養部公開講座は１０月５日（月）〜１１月１８日（水）まで，「現代を問う」というテーマのもと，のべ２０日間にわたって行なわれました。人文・社会・自然・語学・体育特教養部のすべての分野の教官が講師として参加し，現代を生きる市民の価値感をめぐって，それぞれの専門分野からの様々な問題がとりあげられました。６５名の聴講申し込みがあり，修了者は41名でした。講義内容及び担当者等は下の表のとおりです。

番号	月　日	曜	講師名	専攻	題名
1	１０月　５日	月	杉本新平	倫理学	人間であること
2	１０月　７日	水	稲垣保彦	保健体育	健康と生活
3	１０月　９日 １０月１２日	金 月	駒城鎮一	法学	余剰と欠乏と －現代型犯罪の－断面－
4	１０月１４日	水	勝野良一	フランス語	夭折の象徴詩人　三富朽葉
5	１０月１６日	金	桂木健次	社会環境論	経済学における富の定義
6	１０月１９日	月	世利幹雄	統計学	統計からみた戦後の日本経済
7	１０月２１日	水	田中節男	政治学	転換期の現代政治
8	１０月２３日	金	梅原隆章	日本史	近代化とその反省
9	１０月２６日 １０月２８日	月 水	中村哲夫	東洋史	日中比較史からみた現代の意味
10	１０月３０日	金	滝沢　弘	ドイツ語	カロッサの現代的意義
11	１１月　２日	月	三原健一	英語	日英語比較からみた日欧人の意識講造
12	１１月　４日	水	小島　覚	自然環境論	自然保護概論
13	１１月　６日	金	二神　弘	地理学	高移動化社会の論理
14	１１月　９日 １１月１１日	月 水	藤井昭二	地学	生活と災害
15	１１月１３日 １１月１６日	金 月	鈴木邦雄	生物学	動物の行動
16	１１月１８日	水	全員		パネルディスカッション

保健管理センターだより

カウンセラー　高　尾　テルノ

✡センター各相談室から

1　学生相談室

相談室へ訪れる学生の殆どは，大なり小なり何らかの問題をもって相談に来ます。

相談内容は，修学上の問題，性格的問題，精神的問題，あるいは，対人関係（恋愛，結婚なども含む），サークル問題，下宿問題，その他書籍解約の方法，履歴書の書き方，落し物，紛失物についてなど種々様々です。中でも増えているのは　対人関係の問題です。例えば

- 友人がほしいが作れない―― どうすれば作れるか
- 友人（異性）に何をどう話せばよいか―― 話題がない
- 考えたことは話せるが　感じたことは話せない
- 人は何を考え，何を話しているのだろうか
- どのような人と友だちになれば，お互に信頼できるようになるか　などです。

また，少数ではあるが増えつゝあるのは，留年生の授業以外の時間（自由時間）の使い方，休学生の復学しようと思うが，キャンパスの情報が得られない。留年，休学生の資格取得方法（ダブルスクール）などです。

カウンセラーとして，最近思うことは，彼らに自分の足で大地をしっかりと踏みしめ，自然の美しさ　力強さを感じてほしいということです。

音楽を聴くのもよし，読書するのもよいが部屋に閉じこもらないで　大いに戸外に出てほしい。

夏季には　山登りもよいだろう。岩魚を釣りながらの沢歩きもよい，高山植物をじっと見つめるのもよかろう（長い間の風雪に耐えてなお小さな花を咲かせているその美しさ）

秋の紅葉には　錦織りなす高原で寝そべるのもよし，枯葉が風に吹かれてくるくる足元をカケッコするがのごとく転がり行く様もまた可愛いく面白い。

また庭の片隅にかぼそく咲くこすもすの花，風，嵐に吹かれ，倒れてもなお美しく咲きほこっている様は勇気と愛を感じさせずにはおかない。

若者よ　くよくよせず大自然の中に浸る心のゆとりを持ち，静かに自分を見つめることが大切ではなかろうか。

自然は語らないけど，言葉以上に心を慰めてくれる。

自然は全ての悩みをぬぐい去ってくれるであろう。

若者よ　情熱を燃やせ！　勇気を燃やせ！

2　治　療　室

55年度の治療室利用者（3,429人）中　風邪による利用者が最も多く27％（910人），また56年度の4月から9月までの利用者（2,365人）中　風邪のための利用者は，18％（424人）となっています。

風邪は冬から春への季節的なものと考えられていましたが，最近では1年間通してみられます。特に　これから冬に向いますので充分気をつけなければなりません。

風邪の原因はいろいろありますが，特に空気の乾燥・寒冷等によりウイルスや細菌の感染，埃などの刺激やアレルギーなどから起ります。

また誘因としてもいろいろありますが，寒さにあって　身体の表面が急に冷やされると反射的に咽頭や気管の粘膜は貧血を起し　局所の抵抗力が弱まり感染を誘う好条件となります。また，埃を吸ったり，タバコの吸いすぎ　不規則な生活　栄養のアンバランス　疲労なども風邪の誘因になります。

外出から帰ったら必らず　うがいをして予防につとめましょう。

3　栄　養　相　談

尿検査，血液検査の結果何等かの所見があった者，あるいはその他の疾病についての食事療法指導や栄養指導を行っています。

最近，カルシューム，ビタミンB_1，鉄分の不足からくる貧血や脚気が目につきます。栄養のバランスを考えて食事を摂るように心がけてください。

これからは寒くなりますので厚着をしたり，ストーブやこたつの中で暖まるよりも，身体の内部からの暖

房を考えることが寒さに強くなるコツです。

寒さをのり越えるための食事は

1. 高カロリーの食事を摂ること
2. 良質の蛋白質をたっぷり摂ること
3. ビタミンA・Cを多く含む食品を摂ること

です。

まずは体調のくずれないうちに来所し，相談してください。

参考

蛋　白　質（身体の抵抗力を高める。〜肉類　魚介類　乳類，卵類，大豆etc　）

ビタミンA（皮膚や粘膜に抵抗力をつけ，冬においては風邪，しもやけ，ひび，あかぎれの予防になる〜卵・人参・緑黄野菜）

ビタミンB（筋肉や血液をつくり身体のバランスを整える〜胚芽，豆類，しいたけ）

ビタミンC（寒さに対する抵抗力を増し，血圧を安定させる〜パセリ，ブロッコリー，さつまいも，みかん，りんご，柿etc　）

カルシューム（骨や身体をつくり，食事の欠陥を補う〜牛乳，わかめ，ひじき，レバーetc）

✡行　事

1　定期健康診断

毎年4月から6月にかけて定期健康診断を行っています。

全学年通して52年度以降　受診率は上昇してきています。　注〔52年度（59.3％），53年度（62.0％），54年度（59.6％），55年度（68.4％）〕

しかし，教養部の2年生は依然として低調（44.0％）である点についてまだ問題が残されています。

受診率の高まりと共に，一般検診とX線間接撮影の所見率が低下してきている。その反面，検尿と血圧測定による異常者率が上昇しています。

毎年定期健康診断を受けて自分の身体の状態を把握して自分で管理することが大切です。

卒業後の進学　就職の際に必要な健康診断書は，定期健康診断を受診した学生にのみ発行するので　特に4年生は　健康診断を忘れずに受けてください。

2　公開講座

保健管理センターの主な業務は，心や身体になんらかの問題をもって来訪した学生の相談にあずかることです。しかし，こうした受身の業務ばかりではサービスに限界があります。そこで，わたくしたちは自主講座「対話精神医学」，「健康増進セミナー」などを催し，いわば積極的な保健管理活動を推進してきたのです。この活動の延長が今年の公開講座開設に結びついたのです。

講　座　内　容

〃こころの科学〃

月　日	曜	時　間	題　目
8月28日	金	PM6:00〜8:00	能と狂女
9月　4日	金	PM6:00〜8:00	気合と力
9月11日	金	PM6:00〜8:00	集団ヒステリー
9月18日	金	PM6:00〜8:00	対人恐怖
9月19日	土	PM1:30〜3:00	吾が内なる狂気
9月25日	金	PM6:00〜8:00	現代学生の悩み
10月　2日	金	PM6:00〜8:00	司法精神鑑定
10月　9日	金	PM6:00〜8:00	対人関係と感受性
10月16日	金	PM6:00〜8:00	禅と医学
10月23日	金	PM6:00〜8:00	未開民族のノイローゼ

この講座は一般市民を対象としたもので，表に掲げたような要領で行いました。

その後，学生たちの間から，学生向けにもう一度開設してほしいという要望がありますので，目下準備中です。日時・内容など具体的なことがらは，のちほどお知らせいたします。

3　健康増進合宿セミナー　（予定）

今年度の実施期日はまだ未定ですが，昨年度の合宿セミナーは，56年3月1.2.3日の2泊3日の日程で「友と何でも語ろう」という趣旨で，スキーを取り入れながらの合宿を大山町極楽坂スキー場のやまふじ山荘を中心に実施しました。

今年は　(1)グループ体験を通して　日常的なディスコミュニケーションの殻を抜けだし，生き生きとした仲間との交流の中で自由な創造的な人間関係をつくる。

(2)自己を自由に語ることができるようになり，自己の殻を打ち破ってお互に自己発見に努力することを目標にして計画を立ています。

文部省からの予算が付きしだい，期日，場所，経費日程等を掲示しますので，関心のある方は是非参加してください。

昭和55年度　保健管理センター利用状況調べ

(1) 処置室利用者数

病種＼性別・学部	男子学生 文理	人文	教育	経済	理	工	教養	(計)	女子学生 文理	人文	教育	経済	理	工	教養	(計)	合計
かぜ	19	62	29	134	123	204	197	768	2	20	44	1	30	0	45	142	910
胃腸の疾患	6	22	10	47	43	70	65	263	0	11	19	0	6	0	31	67	330
貧血	0	0	1	1	3	1	9	15	0	1	3	1	0	0	12	17	32
打撲・捻挫 突き指	16	13	21	68	73	78	188	457	0	8	68	1	19	0	59	155	612
切り傷・刺し傷	5	27	12	96	85	156	212	593	2	22	49	0	20	0	39	132	725
やけど	0	3	0	1	21	31	3	59	0	4	13	1	22	0	2	42	101
皮膚の疾患	3	10	4	23	20	25	47	132	0	10	18	0	12	0	13	53	185
眼の疾患	0	5	3	26	35	16	29	114	0	7	33	0	33	0	30	103	217
耳鼻の疾患	0	1	0	1	9	1	28	40	0	0	1	0	0	0	1	2	42
歯・口腔の疾患	2	8	1	9	14	17	19	70	0	5	5	0	7	0	8	25	95
その他	0	2	3	20	15	15	28	83	1	3	17	2	4	0	23	50	133
(健康相談)	0	0	0	0	0	12	10	22	0	0	0	0	0	0	6	6	28
(休養)	0	0	0	0	0	1	6	7	0	2	2	0	1	0	7	12	19
検査 血圧	1	3	5	15	16	75	39	154	0	5	7	1	4	0	19	36	190
検査 検尿	0	1	1	4	15	86	26	133	0	2	3	0	4	0	15	24	157
合計	52	157	90	445	472	788	906	2,910	5	100	282	7	162	0	310	866	3,776

在籍学生数　4,904名　(男3,544名　女1,360名)

(2) 学生相談関係来談者数

	相談件数	相談延人数
修学上に関するもの	38件	86人
精神衛生に関するもの	28	157
栄養相談	100	135
その他	120	187
合計	286	565

(注)　その他＝医学相談，課外活動関係，書籍解約相談など。

◇学生部だより

去る7月12日(日)を中心に北陸四大学学生体育競技連盟及び本学の主催で開催された第33回北陸四大学学生総合体育大会における団体成績は別記のとおりでした。

なお，開会式において本学より坂本秀史，中口正広の両君が別記のとおり連盟表彰されました。

第33回　北陸四大学学生総合体育大会団体成績一覧表

種目		優勝杯	1位	2位	3位	4位
男子	陸上競技	金沢大学長杯	富山	金沢	福井	富医
	野球	富山大学長杯	金沢	富山	福井	
	庭球	富山県体育協会長杯	金沢	富山	福井	富医
	軟式庭球	石川県知事杯	金沢	富山	福井	富医
	卓球	金沢市長杯	金沢	福井	富山	富医
	バドミントン	福井市長杯	金沢	福井	富山	富医
	バレーボール	福井県知事杯	金沢	富山	福井	富医
	サッカー	石川県知事杯	富山	富医	金沢	福井
	ラグビー・フットボール	富山県知事杯	金沢	福井	富山	
	剣道	福井県議会議長杯	金沢	富山	福井	富医
	柔道	富山県議会議長杯	富山	金沢	福井	
	バスケットボール	福井大学長杯	金沢	福井	富山	富医
	水泳	福井大学学生部長杯 金沢市議会議長杯	金沢	福井	富山	富医
	ヨット	石川県議会議長杯	福井	金沢	富山	
	準硬式野球	福井大学父兄後援会杯	富山	富医	金沢 福井	
	ハンドボール	金沢大学長杯	富山	福井	金沢	富医
	空手道	福井市長杯	富医	福井	富山	金沢
	弓道	富山大学長杯	福井	金沢	富山	富医
	体操	福井市議会議長杯	金沢	福井	富医	
	自動車	金沢大学長杯	富山	金沢		
女子	陸上競技	富山県体育協会長杯	金沢	富山	福井	富医
	庭球	石川県議会議長杯	金沢	富山	福井	富医
	軟式庭球	福井県体育協会長杯	金沢	福井	富山	富医
	卓球	石川県体育協会長杯	富山	金沢	福井	富医
	バドミントン	福井県教育委員会杯	福井	富山	金沢	富医
	バレーボール	富山大学後援会長杯	金沢	富山	福井	富医
	バスケットボール	富山市議会議長杯	福井	富山	金沢	富医
	ソフトボール	井村杯・北信越ソフトボール協会旗	—	—	—	—
	弓道		金沢	富山	福井	富医
	水泳	福井大学長杯	金沢	富山		

北陸四大学学生体育競技連盟表彰者(本学分)

陸上競技　坂　本　秀　史　　（富山大学教育学部中学校教員養成課程　4年）

実　　績

昭和53年度	春季北信越学生陸上競技対抗選手権大会	走高跳	1m85	1位
	北陸三県陸上競技大会	走高跳	1m85	2位
	北陸四大学学生総合体育大会	走高跳	1m85	1位
昭和54年度	北陸四大学学生総合体育大会	走高跳	1m90（大会タイ）	2位
	秋季北信越学生陸上競技選手権大会	走高跳	1m95（大会新）	1位
昭和55年度	春季北信越学生陸上競技対抗選手権大会	走高跳	1m90	1位
	北日本学生陸上競技選手権大会	走高跳	2m01（大会新＝北信越学生新）	1位

陸上競技　中　口　正　広　　（富山大学教育学部中学校教員養成課程　4年）

実　　績

昭和53年度	春季学生陸上競技対抗選手権大会	槍　投	55m34	2位
	北陸四大学学生総合体育大会	槍　投	52m53	2位
	国民体育大会富山県予選	槍　投	53m58（成年B）	1位
	秋季北信越学生陸上競技選手権大会	槍　投	53m62	3位
昭和54年度	北陸四大学学生総合体育大会	槍　投	58m12	1位
	秋季北信越学生陸上競技選手権大会	槍　投	54m94	3位
昭和55年度	春季北信越学生陸上競技選手権大会	槍　投	60m50（大会新）	1位
	秋季北信越学生陸上競技選手権大会	槍　投	52m84	1位

昭和５６年度　後学期専門移行者調

（56. 10. 1付）

学部	学科＼入学年度	専門教育課程移行者数 51	52	53	54	55	計	移行不許可者数	移行対象者数
文理	文学科							2	2
	理学科							1	1
	計							3	3
人文	人文学科				1	71	72	9	81
	語学文学科					73	73	11	84
	計				1	144	145	20	165
教育	小学校教員養成課程				1	132	133	11	144
	中学校教員養成課程				2	35	37	12	49
	養護学校教員養成課程					19	19	1	20
	幼稚園教員養成課程					28	28	1	29
	計				3	214	217	25	242
経済	経済学科			1	4	88	93	39	132
	経営学科				3	115	118	24	142
	経営法学科				2	45	47	12	59
	計			1	9	248	258	75	333
理	数学科			1	1	35	37	8	45
	物理学科			1	1	30	32	11	43
	化学科			1	2	37	40	7	47
	生物学科				1	24	25	7	32
	地球科学科				2	24	26	10	36
	計			3	7	150	160	43	203
工	電気工学科			1		39	40	13	53
	工業化学科				1	32	33	13	46
	金属工学科				5	28	33	21	54
	機械工学科				1	38	39	15	54
	生産機械工学科				2	26	28	14	42
	化学工学科			1	3	25	29	20	49
	電子工学科				1	33	34	7	41
	計			2	13	221	236	103	339
合計				6	33	977	1,016	269	1,285

昭和56年度後期授業料免除について

後期授業料の免除については，さきに開催の授業料等減免選考委員会の選考を経て，出願者６８０名（学部６５５名，大学院２２名，専攻科３名）に対して，４００名（学部３８２名，大学院１６名，専攻科２名）を許可し，１７７名（学部１７３名，大学院３名，専攻科１名）については文部省と免除の是非について協議中である。

（参考）　前期授業料免除実施状況

区分	出願者	許可者	不許可者
学部	672名	540名	132名
大学院	29名	22名	7名
専攻科	4名	2名	2名
計	705名	564名	141名